

ひきよせ

天理教夕張大教会
北海道岩見沢市9条西6丁目
〒068-0029 ☎0126-22-1248
FAX 0126-23-7275
HP bariten.main.jp
yubaridai146@gmail.com

立教183年 全教一斉ひのきしんデー 4月29日(祝)

感謝の心を寄せ合って 一手一つにひのきしん

◀ 昨年の旭川市常盤公園



▶ 昨年の岩見沢市萩園公園

新型コロナウイルスの感染拡大が世界的に進行しています。事態の終息はもとより、罹患された方々の身上平癒とともに、関係者、困難に直面しておられる方々の一日も早い平穏な日常への回復と、社会的・経済的な混乱の収まりを願っております。

貴方への手紙 (312)

私は新年号に災害の無い一年、平和な一年を願うと書きましたが、一月中頃には中国の武漢を中心に新型コロナウイルスが感染を広がっているとのニュースが伝わりました。しかし身の回りに迫るのは先のことと思っていました。それが現代は大流通社会。あつという間に今や新聞、テレビ、ネットで一番の心配事です。私たちの日常は大きく変わりました。どんな病気か分からないことが不安を増大しています。

個人的な心配の一つは自分も他人様にうつす存在になりたくない。もう一つは、いつ終わるのか分からず予定が立たない。非常事態でやむを得ないことです。無観客の大相撲。プロ野球の無観客試合。音楽関係など文化活動の停止。旅行、飲食、販売などが大きな打撃を受け、生産者の悩みも深刻です。

そしてついに4月19日のおちばでの婦人会総会と関連行事中止決定の報せがありました。国や行政の要請もあり、やむを得ませんが衝撃でした。

今、情報が溢れています。確かな事実を知って落ち着いた対応をしたいと思えます。朝夕のおつとめに一日も早い終息を祈りましょう。

おたすけ先に行きにくい状況がありますが、病気の人のご回

お知らせ

このたびの新型コロナウイルス感染に関する一連の政府発表を受け、その予防対策のため、各行事の中止、延期を決定いたしましたので、お知らせいたします。

少年会夕張団総会 延期

立教183年春の学生おちばがえり 中止

婦人会創立110周年記念総会 中止

復を祈つて教会も個人もぜひお願いごとめを続けさせて頂きたいと思えます。

おふでさきの第14号は明治12年に書かれました。皆さまもできれば読んでみてください。記録によるとその年はコレラが大流行。日本の総人口3577万人のうち10万人が死亡。現代なら約30万人か。

14号のおふでさきを読んで私なりに感じる御神意は、人間をこしらえたのは人間の陽気遊山をみたくからのことである。どのようなこともそれは病気でなく神様からのお手入れである。世界ではコレラが流行しているがそれは神の残念を知らせるためのこと。これからは心をしっかり入れ替えて「陽気づくめ」の心になつてくれ、とのこと。

私は、おつとめと陽気ぐらしの心を教えて下さっているように感じました。

陽気ぐらしへと向かうお道の信仰は、日々の感謝と心のお掃除、種まきを強調されていると思います。それが明るい暮らし、人間関係を改善する暮らし、健康な暮らしをもたらします。人

のためが結局、自分のためになる。幸せを求めるなら、やってみて損はないことです。

「ご守護にまもられている」 私たちはいつでもどこでも細菌やウイルスにさらされながらご守護を頂いて生きています。人には生きるための免疫力が備わっています。免疫力こそ高めたい。ではどうやって?

○免疫力アップには睡眠と運動、そして笑顔です。

○感染のほとんどは手から。汚れた手で自分の顔をさわるので感染するそうです。いつも手洗いが大事です。うがい、マスクも多少予防になるそうです。手作りマスクも良いでしょう。

○アルコールや次亜塩素酸などの消毒液。それが無ければ石鹼液の薄いのも有効。ドアノブでも何にでも有効。

○温度と湿度と風にウイルスは弱い。室温を高めに湿度を高く、そして風通しを良くする。ということは火水風ですね。

おつとめと今日の感謝、そして笑顔で今回の大流行の終息を願います。皆さまご健康に!

3月10日記

二月月次祭の様

2月に入ってから道内の寒さはピークを迎え、各地で記録的な冷え込みを見せたが、数日経つと反対に季節が変わったような陽気で、一気に雪解けが進んだ。15日には少し気温も下がりが朝から雪も降ったが、例年よりは暖かく、土曜という事もあって、多くの参拝者が大教会に集まった。

開扉献饌のち祭文奏上。続いて座りづとめ・十二下りのておどりが務められた。

講話には藤崎実役員が立ち「先日は寒さの底と言いましょるか、9日の旭川ではマイナス25度になり、郊外の江丹別ではマイナス35度を記録しました。旭川でマイナス30度を下回ったのは19年振りの事だったそうです。六十有余年前、私が生まれた日の旭川も相当寒く、沸かしたお湯の湯気で教会中が真っ白になったほどだったそうです。

旭川という街は元々上川アイヌが、チセという茅を編んだ屋根を葺いた家に住んでいたそうです。温かい造りになっている、といいますが、アイヌ記念館で聞いたところ、マイナス30度にもなる寒い日には、アイヌの人達も家から出ずに過ごしていたそうです。

私は夕張大教会で人権問題等について取り扱う、啓発委員と



いのをさせて頂いています。アイヌの歴史について、少しお話をさせて頂きます。

縄文時代には、日本全土にアイヌや縄縄の人々を含む日本人の先祖が住んでいました。のち、鉄器を持った民族が大陸や各地方から日本に流入し、元々住んでいた人達を北、または南へと追いやってしまいます。北へ行った人達は蝦夷(えぞ、えみし)、南へ行った人たちは熊襲(くまそ) 隼人(はやと) などと呼ばれ、中央を治めていた人達から迫害されてきました。

アイヌの人達の居住地を調べると、災害の少ない地域を選んで住んでいるんです。上川は地震や水害が少なかった。十勝はサケがよく取れ、生活環境が良かった。阿寒や白老といった、火山の近くも、火山の恩恵にあずかる生活スタイルが出来ていたからだそうです。

白老にこの4月から『ウポポイ』という民族共生象徴空間がオープンします。ウポポイとはアイヌ語で『大勢で歌う事』と

いう意味だそうです。空港からも程ない距離にあり、今後北海道の新たな観光スポットになると思います。

寒さの中に昔のアイヌの事を思い巡らせた同時期に、旭川地区の冬季災害訓練というものが行われました。災害隊をしている関係上、天理教にも声が掛かり、私も参加してきました。会場の体育館に行くと、室内はマイナス4度。そこから市の職員が慣れない手付きで発電機や石油ストーブを点けていました。挨拶に立った職員曰く『一昨年の震災で遭ったブラックアウトは、季節を問わないもの。なので冬季にブラックアウトが起こった想定で準備しました』との事。その後食べた常備食糧の缶詰も冷たく、寒い思いを味わいました。

旭川では、各避難所にコークスストーブが常備されていて、旭都分教会の近くの小学校にも3台置かれています。しかし、2階の器具庫にしまつてあるところで、災害時に60キロもあるストーブを誰が出すのでしょうか。また、コークスというのは火が点くのに時間が掛かるもので、これではストーブが点く前に死んでしまうのでは、と考える程でした。

しかし、実際に災害が起きるとこういう事になるんだな、と思います。近年の災害は暖かい

時期に集中しているように思いますが、振り返ると北海道でも平成18年には豪風雪で死者18名、負傷者402名という災害もありました。また平成23年空知地方豪雪や平成25年の暴風雪もあり、寒い時期の災害が無いとは言えません。

市の職員は『冬季の災害は、あると思つて準備して下さいます』と言っていました。寝袋や食料、ラジオ等を持ち出せるように、自宅に置いておけ、との事です。皆さんのお家には用意されているでしょうか。

災害の時には、どうしても自分の事ばかり考える人が多くあります。練り合いでは『そういった時に心を寄せ合う事が大切』との声が上がりました。天理教としても『感謝・慎み・たすけ合い』を掲げております、そういった緊急の時にこそ身上の方や高齢者などの事を考え、たすけ合いの精神でありたい、と訓練を通して学ばせて頂きました』と語った。

続いて、女子青年の新委員長として祝梅の高橋都志子さんが紹介された。

その後大教会長は挨拶で『近くの禅洞寺の住職から連絡があり、『6月28日に息子に交代するので、駐車場を貸して欲しい』とお願ひされました。住職は同級生、こちらも夕張と同じく交代の時期なんですね。たす

け合いと思つて、喜んで受けました。

女子青年の新委員長になった高橋都志子さんは、本部の基礎講座に勤めてくれていました。生駒大教会の中川先生という方は基礎講座で講師を務めていたんですが、去年の11月に講師をしようとしたら、受講者が一人だった。この方は東京の方で、特攻隊の本を読んだんです。そこに載っていた手記で『キリスト教徒の両親は熱心に信仰していたが、自分は熱心ではなかった。熱心であれば、もつと心穏やかに死を迎えられたろう。来世は信仰者として生きたい』とあった。これに感銘を受けてネットでも宗教を調べた。すると天理教の『陽気ぐらし』に心を掴まれて、基礎講座まで足を運んだんです。中川先生は感動しまして、世の人は知らないだけで、いざ教えに接すると心を動かされるんだ、とお道に自信を深めたそうです。

新型コロナウイルスで世間が騒然となつていますが、落ち着いた行動を取つてもらいたいと思います。感染に気を付けるのはもちろんですが、自分の免疫力、治癒力を高める事も大事です。喜ぶ事というのは免疫が高まるようです。人に助かってもらおう、という喜びを持てるよう日々お願ひのおつとめをさせて頂きましよう』と話された。

修養科への誘い

修養科94期

村田和彦(新生)

私が修養科に入るきっかけは、長年サラリーマンとして勤めてきた電話工事会社を定年再雇用後も管理職の契約社員として働いていましたが、「64歳だし、今まで幾度かの合併・転籍・出向と利益確保・人材育成等でストレスも溜まってきたので、もうそろそろお役御免で辞めようかな」と退職を決意し穏やかな日常を送っていたところ、梶川創一郎教会長さんから、「修養科に行かないか？」とのお声掛けがあり、飲んだ席で「行きます」と言ったことが発端です。

しかし良く考えてみると、教会の娘さんを嫁さんに迎え約36年間天理教に関わって来てはいるけれど、おてふりも鳴物も全く出来ないし、周りの皆からも「行って良かった、あつという間の3か月間だった」と聞かされ行くことに決めた次第です。

修養科では男子クラスの1組目(33名)で、自己紹介や感話授業で年齢層は17〜83歳、入った理由も身上や事情で人様々であることが分かりました。中には親の遺言という方や深刻な状況にある方も。この時、自分

は健康面で言えば中程度の高血圧であり、恵まれた稀な人間と思っていました。10月に手痛い経験をしました。(後述)

いざ授業やおつとめ・習い物(教典・教祖伝・感話・ねりあい・みかぐらうた・おてふり・鳴物・布教実習・祭事練習・修養科生特権の掃除機による神殿掃除や各種ひのきしん等々)が始まると、その種類の多さや奥の深さ、物事が絡み合って入念に形成された宗教であることに驚いたところでした。

知識技能共にゼロスタートの私は、せつかく教えて頂いた教典・教祖伝が理解出来ずに放っておいたり、おてふり・鳴物で出来ないことをそのままにしておくと修養科の3か月間は乗り切れないと思つたので先送りはしないように努めました。

その手段として身近な人に聞くのは勿論ですが、スマホで新生生のグループラインで聞いてみてみんなの協力も得ました。

また、みかぐらうた・おてふりは空き時間に「中山善衛三代真柱様のCDと宮森与一郎先生のDVD」で練習しました。

それでも未だにおてふりは最も苦手で覚えた端から刻一刻と忘れてしまいます。

前述の手痛い経験ですが、今年の10月15日に献血ひのきしん

がありました。

勇んで400cc献血した後、休憩のプレハブ小屋でパイプ椅子に座っていた処、突然気分が悪くなり意識を失いかけ簡易ベッドに寝かされました。看護師さん曰く、血圧の急激な低下のためらしく1時間程安静にしていたら元に戻り、夕方の遥拝式も無事つとめることが出来ました。

この出来事を副担任に話したら「自分の体なのにどうすることも出来なかつたのは、体が神様からの借り物であることを実体験として見せられたから」と言われ納得しました。

普段から親神様・教祖に御守護頂いているのを実感した次第です。

修養科に行つて最も嬉しかったのは、期間中に別席を9回運ばせて頂き11月15日に「おさづけの理を拝戴」したことでした。

おさづけは「教祖の代わりとして取り次ぐもので効かないと思うのはこうまんであり、自分が助けの主ではない」と教わりました。

早速自分でもと思い、翌朝所主任の多恵子奥様を最初にさせて頂いてから、クラスの仲間(変形性膝関節症で悩んでいる人が多い)にも積極的に20人弱程。地元に戻つてからは環境

の違いからか意思の弱さか殆ど

「小食は長生のしるし」

最近のテレビ番組では、大食いや超激辛の食べるシーンや、食べ放題の店がもてはやされている。しかし、ギャル曽根以外では、なかなか3キロ程度の食べ物には胃に入らない。あんなに食べたなら、後で困る。「腹も身の内」と言われて、暴飲暴食は身体に良くないので、慎みなさいとも言われる。

教祖は、百十五歳が定命で、それ以上は心次第にいつまでも居よ、と教えられる。教祖は小食で、断食も一番長くて七十五日。周りの方々が食べさせようとすると、箸が上の方に持ち上げられるように上がって、食べさせられなかつた、と。生野菜を少々とみりんを少し召し上がっただけと記されているので、穀物とか炭水化物、ましてや肉・魚は見られない。その中、イモや豆の入ったご飯は

行つていません。反省です。最後に、長期間お世話をして下さった詰所の渡部主任先生・奥様・修太さん、暑さで2キロ痩せたけど帰りは逆に2キロ増えるほど美味しい食事忘れません。

また、3人の教養先生(岩佐・竹田・佐藤各先生)、同期の阿部

好物にしていたそうだ。

おぢばの食堂のメニューでも、4月18日はアズキご飯にエビフライ、4月26日はタケノコご飯、9月はクリご飯、11月はマメご飯。混ぜご飯のメニューは多い。さて話を戻すと、オランダの名医が「門外不出の不老長寿の秘法」として残した遺言が二条ある。

第一条・頭を冷たく足を温かく
第二条・お腹にもものを入れ過ぎないこと

第一条は東洋医学でも「頭寒足熱」と言われます。第二条が「小食は長生のしるし」また「腹八分に医者いらす」ということでしょう。

先日百歳以上の長寿者のアンケートでは、食べものに対して腹八分、好き嫌いのない、あとは早寝早起き、くよくよしないなど、当たり前のことばかりでした。やはり、基本的な生活態度なんです。「心次第」とは、見抜き見通しなんです。

紙面をお借りし改めてお礼申し上げます。

私と同じように仕事の都合で長期間の休みを取れない方が居ましたら、性別年齢に関係なく修養科に行く参考にして頂ければ幸いです。

訃報

馬追分教会三代会長夫人
竹田笑子氏(享年95歳)



去る三月四日、馬追分教会三代会長夫人・竹田笑子姉が出直された。享年は九十五歳だった。姉は昭和元年12月26日、継立分教会初代・松尾仁平氏の娘として出生し、道一条を懸命に通る親の後を辿り、御辛抱の道中を通られた。昭和23年に竹田正

ひのきしんデー各会場へぜひご家族でお越し下さい

4月29日、その他の開催日について、各地域のひのきしん会場情報を3月下旬からインターネットで調べることが出来ます。以下のQRコードからページを開くことができますので活用ください。なお、会場がわからない方は大教会まで、お問い合わせください。

昨年のひのきしんデー紹介

ひのきしん会場の旭川常盤公園に、藤田博子さん、娘の直子さんも(共に直轄)、芝生の上で、落葉と枯れ枝集めに汗を流していた。直子さんは脳幹出血から

一と結婚し、馬追分教会の隆盛の上に務めると共に畑を広く作り、永年に亙り大教会にお供えとして、野菜、小餅を毎月運んで来られた姿が思い出される。またたくさんの夕張の初代の通った道を語り継いでくださった事に御礼申し上げます。

毎年春には、教祖御誕生祭に向かう婦人会バス団参にも尽力され、多くの方をお連れして張り切っていた姿が浮かびます。ここ数年、介護施設や病院と、入退院をして療養されていたが、二月には大教会の隣の市立病院に入院していた。

姉の永年に亙る大教会への御苦勞に深謝し、ここに謹んで哀悼の意を表します。

御守護頂いた御礼の気持ち一杯で、旭川会場の端ながら、少し不自由な足下に気を付け、寒さにも、負けず、ひのきしんに励んでいました。

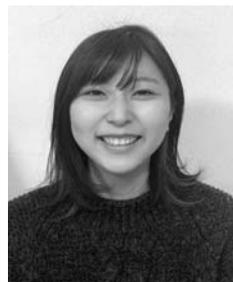
教区・支部 情報ネット



tenrikyo-regional.net

み取るか、インターネットで「ひのきしんデー」と検索して調べることが出来ます

新女子青年委員長紹介



高橋 都志子
祝梅分教会

婦人会の中で、高校生〜25歳までの世代を「女子青年」と呼んで、年齢に応じた活動を進めています。

3月から新委員長が芯となって活動くださいます。今後よろしく願います。

前女子青年委員長の太田夏実さん(石狩川分)、誠にありがとうございました。

庶務 2月

▽本部詰員登用

竹田 勲(馬追) 2・28

▽詰所ひのきしん

山根 直樹(善進道) 2・22

山根ふじの(善進道) 2・22

矢野 宏信(富陽) 2・23

矢野 明子(富陽) 2・23

大教会日誌抄 2月

1日 会長、神崎大年祭

3日 会長、帰会

14日 祭典準備

月例会議

15日 月次祭

19日 会長、関東方面おとめへ

その後おちばへ

23日 会長夫人、馬追分婦人会総会へ

24日 鼓笛練習日

26日 会長、本部神殿当番

28日 遥拝式

28日 会長、帰会

編集後記

新型コロナウイルスの影響

教祖は、手踊りの「この世」という手振りや、座りつとめでは「ちよとはなし」で、左右の人差し指を口から出したり引いたりする・手振りを教えられた。これは、自分から話しかけると、人の話を聴くのが、この世と教えられた、と思う。今、無観客の相撲を見ているが、やはり力士は、声援も聞こえない取り組みには、張り合いにかけると思う。座布団が飛ぶような、この世のやり取りがあつてのものだ。

以前、修養科の講師をして、よふぼくの方たちへの講話があったり、500名からの聴衆がいたときは、かなり緊張したが、その反応の凄さに驚いた。私の父が悪性の肉腫を助かつて有難かった話で、私が感に迫ってほろっとする(よくあることだが)その前に、沢山の方が泣いていたのだ。人に鍛えられるものもあるが、育てられ励まされるのを味わった。その後、ハンカチぐらい持つてなさいと、おばあちゃん達からたくさんハンカチを頂いた。

さて、コロナでひどい目にあった方達や、お客商売で売上が落ちて立ち直れない方達もいるだろう。早い終息を祈るのだが、被害が収まった



3月8日 峰延分教会月次祭 マスクをつけ参拝

なら、貯めていた分を真っ先に駆けつけて、売上に貢献して、元気づけてあげよう。

しかし、物事はひどい事ばかりじゃないと、コロナ禍で良かったことだつてあると、家族で話した。ニュースで大気汚染が弱くなった。いつも講っている北京が、スッキリ写っていた。そういえば、私も久しぶりに保育所が休みとなって、孫とタップリ遊べた。ソリ滑りの坂を作り、滑らせ、カマクラを作つて、ソリを引いて買い物まで行つた。お陰で、二日程経って脇腹が痛くて閉口した。子供と遊んだお父さん、お母さんもたくさんいて、預けられないで困っている方がテレビで取り上げられていたが、子供との時間をゆっくり持てたという喜びもあつただろう。つくづく思った、家内の本音など、見えないもの程、恐ろしい。(ま)